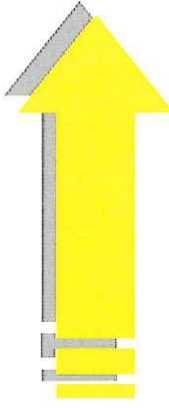


オリジナル「木製架台」が専門誌に掲載!



太陽光発電の専門メディア

『Pveye

Vol.11』

2013年2月号1月25日(金)



ヴァイズオンプレス株式会社



インタビュー

トップランナー 自社ブランドモジュール販売 木製架台もラインナップ

事業や住宅建築を手掛ける領林グループの太陽光発電システムメーカー、トップランナー(岐阜県岐阜市、領林正孝社長)は、自社ブランドのモジュールの販売を強めている。2014年5月期に20MW以上を目指し、市場へ供給していく。

同社は、領林(岐阜県岐阜市)のソーラー発電事業部を分社し、12年5月に設立した。領林正孝社長は、「住宅販売をもう領林では、約3年前から太陽光、2年前からは太陽光発電の施工、販売を手掛けている。全量発電の開始に伴い、分社して、営業展開していくことにした」と意図を述べる。

12年10月には、住宅用システムの「J-PEE」認証を取得。領林社長はモジュールについて、「品質管理の徹底や安心感を獲得するため、OEM(他社ブランドでの生産)という形を取ることにした」という。住宅用はグループ会社であり、総代理店の「あつたな株の国から(岐阜県岐阜市)」を通じて、代理店経由で販売している。

同社は現在、発電システム全体の生産は中国シネクスンに委託してい

る。「品質管理や技術、実績を評価した」(領林社長)。モジュールの製造委託先については、今後追加し、ラインナップを拡充していく方針だ。

また、領林グループは、林業を営業していることもあり、同社は木製架台を独自開発、営業用市場へ向け、12年12月より販売している。領林社長は、「熱に強く、湿気にも対応できるもの。法隆寺と同じ木材である檜を採用しており、杉則的な信頼性もある。価格についても弊社と架台を10W、30万円円で供給可能だ」と自信を見せる。

なお同社は、自社でのIPP(独立系発電)事業として、6ヶ所合計500kWの産業用太陽光発電の導入も進めている。領林社長は、「この自社での発電事業は、テスト的な意味合いもある。トータル1MW規模まで拡大したい」としている。

今後については、「産業用と住宅用の両面場で拡販していく。13年5月期の販売量は、4MWから8MWを目標としている」としたうえで、「14年5月期に20MWから40MW、15年5月期に100MWから200MWを目指している」と意気込みを語った。

出展『Pveye Vol.11』2013年2月号 P40 掲載

『木製架台は熱に強く、塩害地にも採用できるもの。法隆寺と同じ木材である檜を採用しており、長期的な信頼性もある』～記事より抜粋